

事業所職員 児童発達支援 自己評価結果

回答者8名(非常勤職員は未回答項目あり)

公開日 令和4年8月4日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	8	0	・4つの訓練室のうちスペースに余裕がある2つの訓練室とホールを活用して療育を行っている。子どもの特性に合わせた集団編成を日々行っている。
	2 職員の配置数は適切であるか	3	5	・5人の児童に職員が1人以上つく職員定数の基準が法律で決められており基準は満たしている。基準の2倍である10人の児童に4人の職員が対応することを目指しているが、勤務する職員の人数が少ない日もある。 ・様々な発達特性があるお子さんに対応する現場であり、手一杯という日もある。支援目標に近づけていくためには職員数が十分でないと感じる。安全確保や支援の充実のためにもっと職員が必要だと感じることがある。 ・リーダーと補佐がいて役割分担はできている。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	5	3	・子どもが理解しやすい表示、玩具の配置、写真やイラストを活用した表示の工夫に心掛けている。 ・1日の流れ、おもちゃを片づける棚等、視覚的に構造化されている。 ・玄関のスロープ等最低限の対応は行っているが、施設の老朽化は課題である。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	7	1	・毎日施設内のアルコール消毒を行い、週の最終日にはおもちゃなどの細かな物も消毒を全て行っている。 ・毎日トイレや洗面台の掃除を行い、清潔であるよう床も掃除機をかけている。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	5	2	・2週間毎の定期的な職員会と毎日15分間のミーティングを実施している。非常勤職員にも口頭で伝えるときに紙面回覧も実施し情報共有を図っている。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	7	0	・保護者向けアンケート調査は毎年実施している。 ・同じ敷地内にあるゆりかご成育相談センターの相談支援専門員に届く保護者からの声も共有し、改善につなげている。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	5	1	・職員に対する自己評価も毎年実施し保護者に伝えるときにホームページにも公開している。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	1	6	・第三者評価は行ってない。関係機関からの声を集め、改善に結びつけることは心掛けている。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	8	0	・職員会の中に研修会を位置付け、利用児についての特性とそれに応じた支援につなげるよう努めている。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	7	0	・面談にてアセスメントを丁寧に行い、計画に反映できるようにしている。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	4	2	・職員の異動などもあり、アセスメントツールの共有に弱さが見られた。改善に取り組んでいく。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	7	0	・必要な内容を明記し、そのための具体化と実践に取り組んでいる。関係機関連携は保護者の依頼を確認した上で行っている。 ・個別の支援計画に、発達支援・家族支援・地域支援を取り入れ、目標を設定している。 ・家族のニーズや個々に合った支援を取り入れている。 ・学校との情報交換を行い、支援内容を共有し同じスタンスで支援を進めていくことで当事者の戸惑いが無いように配慮している。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	6	0	・各担当を中心に行っている。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っているか	5	1	・月間プログラムを保育士・児童指導員で話し合い作成している。 ・担当制により児発管と担当者で立案している。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	7	1	・特徴的な活動を毎月の計画予定通信にて知らせている。 ・季節に合った活動や粗大運動・微細運動を取り入れている。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	6	1	・個別療育と集団療育を組み合わせた支援を提供している事業所である。少人数での集団療育を組み合わせた支援計画につなげている。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	6	2	・毎朝15分ミーティングを行い、課題・ねらい・引継ぎ等を確認している。 ・打ち合わせはできているが、細かな役割分担までできていないところがあった。パート職員との連携も大切にし支援の全体の質を高めていくことを考えている。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	4	3	・18時まで支援を提供している事業所であるが勤務時間も18時までであるため原則として翌朝行っている。ヒヤリハットや重要事案と判断した際には時間外勤務として緊急の打ち合わせを行っている。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6	1	・保護者との連携日誌、業務日誌を確実に記録に残している。PDCAサイクルでの支援が情報の共有のレベルを高めていけるように、記録以外の情報が機能するように風通しの良い職場を目指している。
20 定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	6	1	・6か月に1度行っている。同施設内に併設されているゆりかご成育相談センターとの連携も大切にしている。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	5	1	・主に児童発達管理責任者が参加している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	4	2	・主に児童発達管理責任者が参加している。保健師やエール岐阜との交流や連携を大切にしている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	2	3	・医療的ケアが必要な児童はいない。ただし、てんかん発作等の持病がある児童は数名おり、保護者と主治医との連携をとって緊急時の対応を整えている。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	2	3	・医療的ケアが必要な児童はいない。ただし、てんかん発作等の持病がある児童はおり、保護者と主治医との連携をとって緊急時の対応を整えている。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	7	0	・併行通園の利用児には特に密な連携を行っている。 ・児童発達管理責任者を中心に行っている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	7	0	・切れ目のない支援が行えるように情報を共有している。 ・児童発達管理責任者を中心に行っている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	4	2	・県の研修会以外に「子どもの発達支援研修会」や「障害支援研究会」などのスキルアップ研修会などに積極的に参加している。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	0	6	・環境変化や集団が苦手な児童が多いため交流等は実施していない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	0	6	・必要があれば参加する。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	7	0	・送迎の際に、その日の様子や変化を直接伝え合う。気になる点の早期解決に臨んでいる。 ・迎えの際に保護者にその日の出来事や気付いた事項を毎回伝えている。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	2	5	・ご家族を応援していきたいと考え、利用者に声をかけ日常的な支援に心掛けている。ペアトレとしては行っていない。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	6	0	・更新時に契約や支援のについて説明し、合意を得た上で署名をいただいている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	7	0	・面談の際には細かく説明し、同意を得た上でサインをいただいている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	7	0	・迎えの際に、相談に応じたり、ちょっとした気づきについて保護者に声をかけ保護者を応援している。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	0	6	・現在保護者会は行っていない。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	7	0	・相談支援専門員や併行通園の場合は、必要な連携を整える連携に臨んでいる。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	6	1	・月に一度予定表を出し、課題の内容や様子を知らせている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	7	0	・職員会議でも議題として取り上げ、適切な対応に心掛けている。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	8	0	・丁寧な説明と確認を心掛けている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	0	6	・地域連携の行事などは行っていない。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルはあるが明確でない。 ・利用している幼児をいかに安全に誘導するかは、パート職員を含めた職員の動きを定期的に訓練することを行っていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	7	1	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練、消火訓練を年2回行っている。シェイクアウト訓練も取り入れている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬依頼書を保護者に記入してもらい、薬と一緒に持参していただいている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	5	2	<ul style="list-style-type: none"> ・弁当持参でお願いをしており、保護者の管理下の物を食べている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット事案については報告書を作成し、パート職員も含め対応策についても共有を図っている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	4	2	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会の中で児童福祉司の経験のある施設長が研修を実施している。全て室外から観察できる部屋になっており、管理職や児発管が巡回している。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的拘束を行っていない。 ・部屋を突然飛び出したり物を投げたりする衝動的行動を取りやすい子に対応するために、入口のガラス戸を施錠することはある。安全確保のための集団に対する環境整備である。

○この児童発達支援自己評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の職員の方に、事業所の自己評価をしていただくものです。「はい」、「いいえ」のどちらかに「○」を記入するとともに、「工夫している点」、「課題や改善すべき点」等について記入してください。